



八日市ます協だより

第70号
令和6年3月発行

地震などの災害は、いつどこで発生するかわかりません 日ごろからの備えが大切です

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、甚大な被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。多くの尊い命が失われ、家屋や建物が倒壊するなど、甚大な被害をもたらしたことに、深い悲しみと憂慮を感じております。被災地域の日も早い復旧と復興を、心よりお祈り申し上げます。

能登半島地震を教訓に、震災の対策例を挙げてみました。

○家具や家電などの転倒・落下防止対策を行ってください。

地震の揺れで倒れたり飛んだりすると、けがの原因になります。

○非常用品や非常持出品を準備してください。

地震後には停電や断水などが発生する可能性があります。飲料水や懐中電灯、食料品、救急セットなどの非常用品を備えておきましょう。

○家族や近所との連絡方法や集合場所を決めておいてください。

地震で電話やインターネットが使えなくなることもあります。安否確認や避難の際に困らないように、事前に家族で話し合っておきましょう。

○地域の避難場所や避難経路を確認してください。

地震で家屋が倒壊したり、火災が発生したりする場合には、安全な場所に避難する必要があります。自治体の防災マップや防災アプリなどで、自宅や学校、職場周辺の避難場所や避難経路を把握しておきましょう。



能登半島地震は、石川県能登地方で発生したマグニチュード7.6の大地震で、最大震度7を観測しました。この地震により、多くの人々が亡くなり、負傷し、家屋やインフラが大きな被害を受けました。地震はいつどこで発生するか分かりません。日頃から防災に関する情報や知識を身につけて、備えることが必要です。今回は各町の取り組みを紹介します。

清水町

総自治会では、2007年に「清水防災隊（SDT）」を組織して17年目となります。防災に関する知識の普及・啓発、災害に対する予防対策、災害時の避難誘導等応急対策および防災資器材の整備等を目的として活動を行っています。隊員は現在38名で、一人当たり15世帯を巡視可能となるよう、町内に分散配置しております。防災避難訓練は毎年11月の第3日曜を「清水町防災の日」として位置付け、避難場所へは約150名の参加をされています。



令和5年度は、実際の市指定避難場所「子育て支援センターハピネス」への誘導訓練を行い、センター副館長および防災危機管理課による出前講座を開催しました。過去の災害避難事例等の知識をいただき、今後の課題が浮き彫りになってきました。うに思います。

古い建物の密集地である狭い路地からの誘導方法、各世帯の安否確認方法、さらには避難所での運営など、今出来ることを今のうちにしっかり確立していくことが大事であり、過去の教訓を生かせるよう、隊員一人ひとりが自覚を持って今後も活動を続けていきます。

清水防災隊（SDT）隊長 大橋和史

金屋

総自治会では、各自治会の地域安全責任者及び連絡委員を対象とした防災訓練を11月に開催しました。

最初に、地元消防団員の指導を受けながら、道路上の消火栓を使った初期消火放水訓練を行った後、市の防災担当者を講師として迎え、金屋地域の地図を囲んで、議論をしながら地域の防災対策を考える「防災図上訓練(DIG)」を行いました。防災図上訓練では、地域にある空き地の場所の把握や避難所までの経路で、家屋の倒壊により通行できなくなる道路など、自分の住むまちに起こる可能性がある災害に対する対応を具体的にイメージしました。

また、災害が発生した時に想定している備えが、時期(寒さ暑さ)や時間帯(昼夜)についても問題がないかなどに



ついて考えました。

金屋会館横の公園内には、かまどベンチを設置しており、防災訓練やイベント時に活用しています。また、災害時に地域として活用できる災害用備蓄を進めるため、今年度は災害救助用



毛布や折りたたみ式ウォーターバック、ヘルメット、ブルーシートを購入しました。

八日市町

総自治会では、防災避難訓練および研修会を10月7日に45名の参加で、開催いたしました。



午前8時半に各町一次避難場所に集合後、皇美麻会館に集合し参加者の点呼・確認を行いました。

その後の研修会では、八日市消防署職員の方々により、防災についての講義と救命措置の実地訓練を行いました。この研修会では、心肺蘇生法やAEDの使い方などの救命措置を、ひろく自治会員の皆さんに覚えていただきました。



緑町

総自治会では、毎年救命講習や消火訓練を実施しています。救命講習では、AEDの使い方や、心肺蘇生法などの講習を実施しました。また、消火栓の使い方の講習のあと、町内の消火栓設備の点検を行っています。

浜野

総自治会では、総自治会長をトップとする防災組織があり、8つの各自治会にも防犯・防災委員がいます。

今年度も大きな地震発生を想定して、各自治会の一次集合場所に集まり、安否確認をする防災訓練を行いました。その後、市の防災危機管理課から来ていただき「我が家の防災対策」についての講習会を行いました。

また、一次集合場所や消火栓・消火ホース格納ボックス等を記入した防災マップを更新して全戸配布しました。

防災対策の備品として、ヘルメット、非常用発電機、大型投光機、チェーンソー等を浜野会館に保有しています。今後も必要物品を順次取り揃えていく予定です。



東本町

総自治会では、防災施設として、防災かまどベンチ2基・防災非常用井戸1基・防災倉庫1棟を保有しています。また、発災時の防災資機材としてヘルメット・発電機・ソーラー式蓄電池・チェーンソー・ボール・ハンマー・物品移送用マルチキャリア・衛生用品などを防災倉庫に保管しています。

人命救助の対策としては、年1回自治会会員に防災名簿の更新をお願いし、災害時の共助のための避難行動要支援者安否確認行動計画を策定しています。



防災避難訓練は年1回実施し、避難行動要支援者への緑のハンカチによる安否確認訓練、各自治会一時集合場所から指定避難場所への歩行移動訓練を行っています。

災害時の実践的訓練としては、土嚢積み、簡易担架の作成及び模擬搬送、消火器による初期消火訓練、防災非常用井戸からの生活用水の汲み上げ、防災かまどベンチでの火おこし、保有している防災資機材の展示などを実施しています。



(東本町総自治会自主防災会)

新八日市駅

清水町では3年前からボランティアを募り、新八日市駅の清掃を行なってきました。(時には市議員、市の職員の方々、町内外の通勤の方にもご協力頂きました。)

そして、令和5年にかねてから要望のあった新八日市駅のトイレが新設され、昨年(2023)の12月11日から使えるようになりました(^v^)



ボランティアによる
清掃作業



男性、女性用のトイレの他ユニバーサルトイレも整備され、鉄道利用に関わらず誰でも利用可能です。



厚生労働省のデータによると、日本の平均寿命(0歳の平均余命と同義)は男81.5歳で、女87.6歳です。これを都道府県別に見ると、滋賀は男では82.7歳で最長、女でも岡山に次いで微差の88.3歳の2位です。短い方では、男女共に、青森が最短で、男79.3歳と女86.3歳です。長寿県の滋賀と短命県の青森には、男で3.4歳、女で2.0歳の差があり、この差は遺伝、気候、食生活、災害等の要素が複雑に関係し、特定は出来ない。

世界的に見ても、医学の進歩度、乳児死亡率の低下度、上下水道等の生活環境の整備度の強みから、日本は男女共に最長寿で、日本一長寿の滋賀は世界一でもある。

男の最高齢は千葉の方で111歳、女は大阪の方で119歳です。100歳以上の方は9万2139人で、男が1万550人、女が8万1589人で、東京、神奈川、大阪のように人口の多い都府県が上

位を独占する中、人口集中を補正した10万人当りの順位では長寿の滋賀は、終(つい)の棲家ではないのか39位と苦戦している。

40年後の平均寿命は、男が85.0歳、女は91.4歳で、各々40年前からの増加曲線上にある様に見えるが、そもそも寿命に限界はあるのだろうか。心臓は筋肉運動だから経年劣化を否めず、心拍数は15億~25億回が限界と言われている。

寿命に因んで、信長が好んだ「敦盛」の一節を参考までに紹介します。

「人間五十年 下天の内をくらぶれば 夢幻のごとくなり 一度生を得て 滅せぬ者のあるべきか」
(人生は僅かに五十年、俗世の出来事は儚く夢の様なものだ。一旦天命を得たからは、潔く、悔いのない一生でありたいと思う。 筆者意訳)

森野吉雄さん

あれやこれや

其の二十六

滋賀は長寿県

四月には新たな学校や社会人としての生活が始まります。そして新しい出会いが待っています。そこでずっと付き合う友達も出来るし、仕事上や人生の上での先輩たちのたくさんのお出合いが待っています。また何年かすると後輩も次々とできてきます。そんな出会いを大切にしたいって欲しいものです。
ちなみに私の人生最高の出会いは、四〇年前に妻と出会えたことです。(笑)



浦根悦夫



片言隻句

へんげんせつこ

春本番となりました。万葉の時代に額田女王が春と秋とではどちらが良いかと聞かれ、「緑の若芽が出る春も良い、山が赤く染まる秋も良い。」と両方をほめて一同にとっちなかと思わせて、最後に「秋こそ我は」と春秋問答歌で秋に軍配を上げました。しかしながら、暖かい日差しと柔らかな風に満ちた春が良い方もたくさんおられるでしょう。



まごころ

発行：八日市地区社会福祉協議会・八日市地区民生委員児童委員協議会

令和6年3月

地区社協研修「みらいノート」を書いてみよう

地区社協では、毎年地域住民のみなさんに参加していただける研修を実施しています。9月には、東近江市版工ンディングノート『みらいノート』を実際に書いてみる講座を開催しました。

エンディングノートとは、もしものときに備えて、家族や支援者に自分の情報や希望、考えなどを伝えるためのノートです。

『みらいノート』には、生年月日や住所といった基本情報のほかに、家系図、趣味について、葬儀やお墓について、連絡先、これからチャレンジしたいことなどを記入する欄があります。家族や支援者の負担を軽減するとともに、自分の希望を伝えておくことで、未来の不安を整理し、話し合うきっかけにすることがノートの目的です。

注意点としては、法的な拘束力がないこと、パスワードや金融資産の情報を記入するため保管に気をつけること、定期的な見直しを行うことがあげられます。

ノートとは別に、「救急時に伝えたいことリスト」「終末期医療についての意思表示リスト」があり、延命治療についての意思表示や臓器提供の希望を書くことができます。

救急搬送で運ばれる場合に備え、今はまだ若い方も、万が一のときに伝えたいことはなにか、どのような処置を望むかなどを考えてみてはいかがでしょうか。



善銀助成事業 障害者福祉研修

12月には、障害者福祉に関する事業として、社会福祉法人 八身福祉会 加藤施設長より『多様な人たちが共に生きられる地域をめざして』というテーマでお話をいただきました。

わたしたちの社会は、健常者を基準に制度設計されているため、障害者をとりまく環境や意識はまだまだ十分ではありません。

誰もが地域で共に暮らせる共生社会を実現するため、合理的配慮を必要なタイミングで必要なひとが受けられることが大切です。

《歳末助け合い活動》

今年も八日市地区シニアクラブ 連合会さまより、歳末一円募金のご寄付をいただきました。

ご協力くださった皆様、温かいご支援をありがとうございました。